

## 【随想】

# 見た目がすべて

映画監督 グ スーヨン

<神戸新聞>

ある日突然、顔のレーザー染み抜きをやりたいと言い出した 98 歳のおばあちゃん。

「今さら何言ってんの、お母さんたら、それにレーザー染み抜きってけっこう高いのよ」。娘が呆<sup>あき</sup>れて言う。

「またテレビで見たんでしょ、アタシだって整形したいとこいっぱいあるのに」。孫娘がツツこむ。

子供たちの言い分はもつともだ。98 歳でレーザー染み抜きをしてキレイになっても、それは無謀な無駄のように思えるだろう。悲劇的に人相が悪い 58 歳のオレが、今さら整形してイケメンになるという無謀な無駄と同じである。

気持ちは分からなくもない。

ほとんどの人は、優しそうな顔の人は優しい人、怖い顔の人は怖い人と、外見でその人を判断する。見た目が強<sup>こわもて</sup>面なオレは、

怖くて乱暴な人と誤解され、随分と損をしてきた気がする。本当は穏やかでシャイな性格なのになあと、夜な夜な涙で枕を濡らしたものです。

見た目がすべてなのだ。

でも歳を取るにつれて、そういう世の中の理不尽にも、すっかり慣れてしまい諦めてしまった。

98歳になってレーザー染み抜きをしたいと言うおばあちゃん。やっぱり女性は、いくつになっても諦めないのかもしれない。

「今さら、どうしてレーザー染み抜きなんかしたいの?」。娘が聞いてみた。

「だってね、もうすぐ天国のおじいちゃんに会うから、だから、その時にキレイにしてなくちゃ」。おばあちゃんは答えた。

あの世でも、見た目がすべてなんだろうか? きっとおじいちゃんは、見た目だけで判断しないですよ?

(映画鑑賞、小説家、CMディレクター)